



おさらい: IPIECA とOSWG: ビジョンと目標

国際石油産業環境保全連盟 (IPIECA)

- 石油産業に関連する地球規模の環境に係る課題に対して、科学的、費用効果的、実際的で社会的にも経済的にも受け入れ可能な解決策を考え推進すること
- 環境に係る課題について、石油産業の国連との第一義的な接触 ポイントであること

オイルスピルワーキンググループ(OSWG)

- 世界的に見た危険地域における海洋への油流出事故に対して、 準備と対応の状況をさらに改善すること
- 総合環境影響評価や段階的対応の採用、及び関連条約の批准を 促進すること
- 国家レベル、地域国間レベル、及び国際レベルでの石油産業と政府との協力関係を実現すること(グローバル・イニシアティブ)



IPIECA OSWG のメンバー

• 国際的な石油会社



国際的な 技術パートナー



時代の変化

- 新たな地球規模の課題への対応が求められている
- 既存の各ワーキング・グループ役割と業務の見直しが必要
- 妥当性のチェック
 - 我々はメンバーのニーズに応えているか?



OSWG の一般的考察

- グローバル・イニシアティブ・プログラム は IPIECA の 使命に呼応している
 - OSWG は国連/IMO との<u>関係調整役」</u>としての戦略的役割は 維持する必要がある
- 技術的内容の出典がどこであるかに拘らず、IPIECA の報告書シリーズの信頼性やNGOとして地位を築く上で、IPIECAが出版物を管理するのが最善である
- 地球的な連携による石油産業技術諮問委員会 (ITAC) は、IPIECAの各種計画や出版物の技術的内容の提供 やアドバイスで、不可欠な役割を演じている



OSWGについて導かれた結論

- 1. 地域国家間の問題解決とグローバル・イニシアティブ
 - イニシアティブはここのメンバーが活動しかつリスクに根ざした地域 国家間的なものである一方、より広範な石油業界の利益についても 考慮されなければならない
 - 地域国家間的なモデルは慎重に拡大するべきである
 - グローバル・イニシアティブ (GI) 計画は維持拡大すべきである
 - GI 推進委員会は IMO との信頼性を維持するため、OSWG の傘の下にとどまるべきである
- 2. 技術諮問評議会 (TAC)との協調 教育及び通信連絡プログラムの共通化
 - GI のサポート
 - 戦略レベルから実行レベルまでの円滑な仕事の流れ



OSWG の業務戦略

•OSWG の業務方針

- OSWG は地球規模の連携による支持に再度焦点を合わせ、 作業グループとしての立場を維持するべきである

•OSWG の業務範囲

- OSWG はIPIECAの設置目的の中で採用されている核心的な業務に焦点を当てるべきである。国連での環境に係る課題についての連絡先であるべきで、我々について言えば、それは油流出対応についての課題とMOとの関係である
- 通信連絡と教育のプログラムについては継続するべきである
- 諸会議、訓練ワークショップのスポンサーとなるべきである
- 技術諮問委員会 (ITAC)と協働で世界レベルの技術レポートを 作成する
- グローバル・イニシアティブについて戦略的にリーダーシップを とる



オイルスピル・ワーキング・グループ 主要目的

- 関連国際条約の批准促進
- 段階的対応」の考え方の普及
- 科学的なリスク分析と対応戦略の推進 (総合環境影響評価NEBA)
- 次の組織と共に「グローバル・イニシアティブ」に参加
 - 国際海事機構 (IMO)
 - 国家的及び地域国家間レベルの政府及び業界
 - 海運及びその他業界



国際条約の批准



国家計画 = 準備



OPRC + 国際協力



"92 CLC 及びFC + 補償

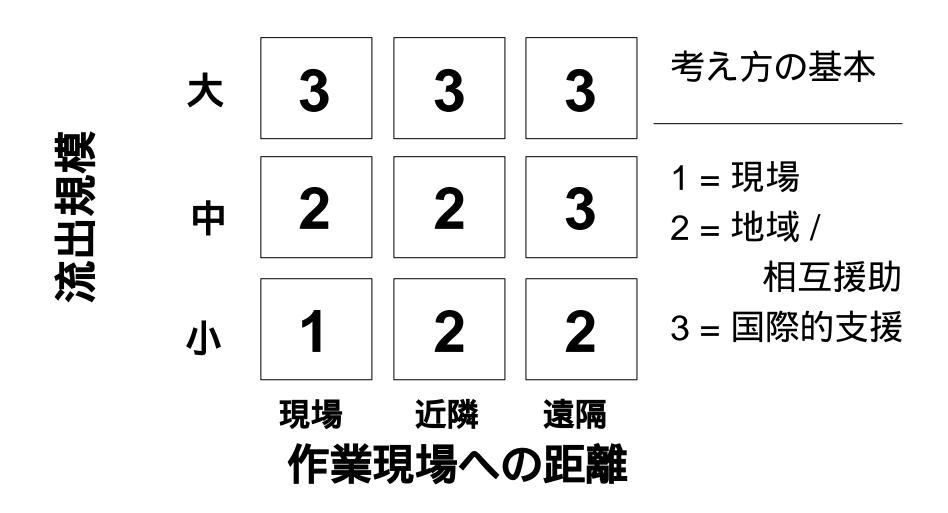


MARPOL条約 + 操業上の漏油事故削減



段階的対応の考え方

油流出のリスクに対してその現場或いは特定できる 場所に対応能力を持つ





総合環境影響評価 (NEBA)

- 各対応戦略が環境に及ぼす影響を総合的に検討
- 以下に関する理解が必要:
 - 脅威に晒されている或いは脆弱な資源
 - 各対応戦略の妥当性
- 戦略は事故対応の過程で変更され得る
- 緊急時対応計画策定の途上で考慮されるべき



NEBA は全ての対応オプションが利用可能であることが前提



処理剤散布







防護

包囲と回収



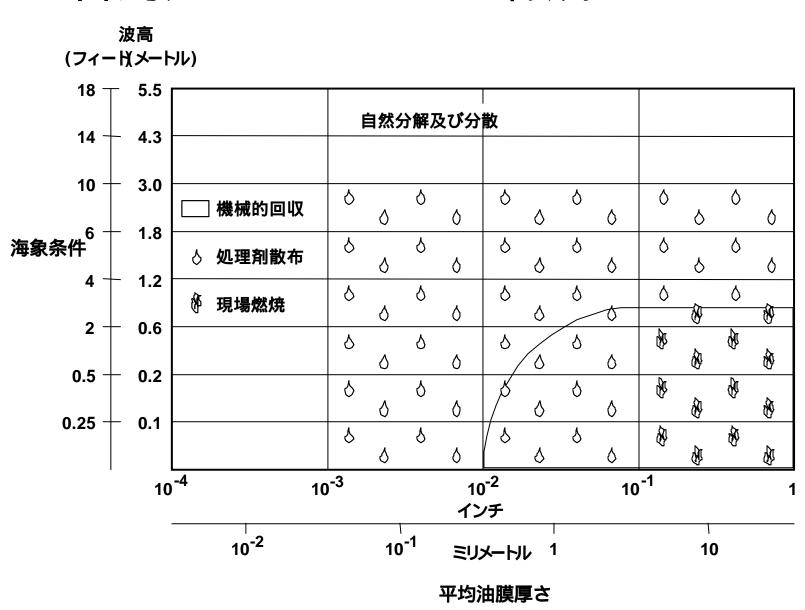
現場燃焼



海岸線清掃

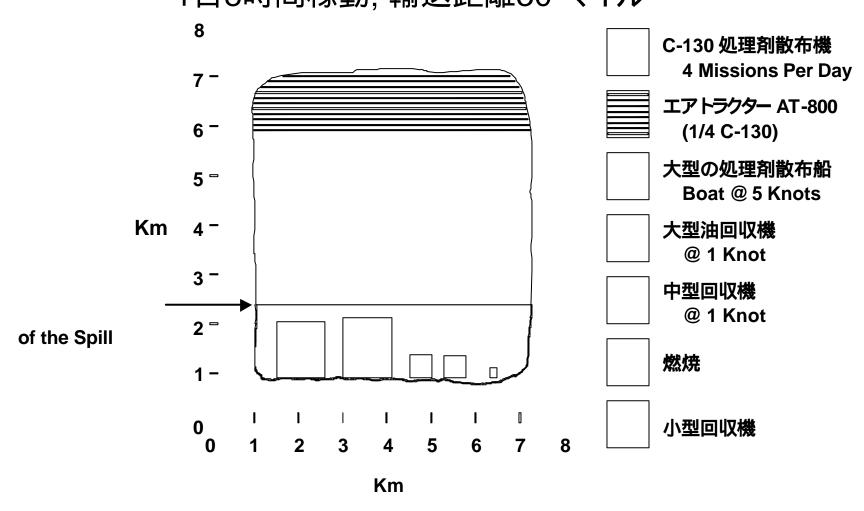


各対応オプションには限界がある



対応システム別にみた2日間での達成比率

基本条件:10,000 トン流出; 0.2 mm 厚; 20% 蒸発; 1日8時間稼動; 輸送距離30 マイル





IMO / 石油産業 グローバルイニシアティブ



目 的

石油産業が支持することで国家的及び地域国家間レベルでの油流出に対する準備と対応の能力を高める

IPIECA プローバル・イニシアティブ Limo

- 専門的知識の分担を通じて政府と産業界の協力関係を確保する
- 持続性のある緊急時対応計画策定にむけてリード役 触媒役を演ずる
- 既存のネットワークを使って国際的支援を得られるようにする
- 政府と当該国産業界の連絡先を確認しておく
- 出資者を募るプロジェクトの立ち上げを必要に応じて 支援する



グローバル・イニシアティブ に基づ*谷*元動



- 通信連絡
 - 報告書シリーズ、ビデオ、説明資料及びGIニューズレターを 通じて一貫したメッセージを発する
- 技術的使命
 - 条約批准、国家計画の承認に向けた前進
- テクニカル・ワークショップ
 - センシティビティマップの作成に向けたワークショップ
- IMO モデルの訓練コース
- 諸会議、ワークショップ及びセミナー
 - 設営及びプレゼンテーション



グローバルイニシアティブの位置



カスピ海 / 地中海 黒海 東南アジア 広域ガリブ海 東アフリカ/ 西及び中央アブリカ インド洋諸島



計画策定プロセス

- 政府、産業界及びリスクと責任を分担すべき 全ての関係者:
 - リスク評価と経済的、社会的、生態学的影響の可能性評価
 - 信頼性のある対応戦略の策定
 - 責任の明確な定義と受け持ち
 - 運用訓練、維持管理及び更新の確保 (持続性)

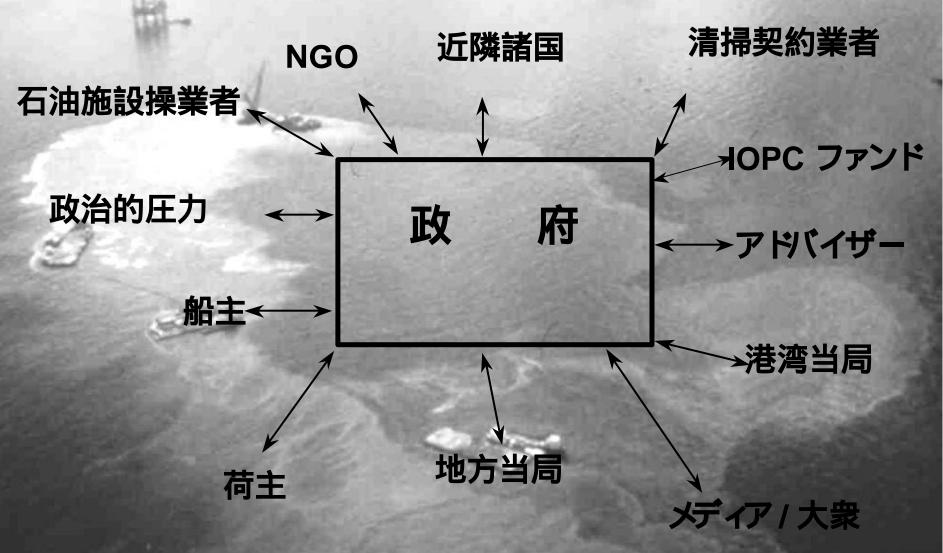


大規模事故 共同作業が必要

政府



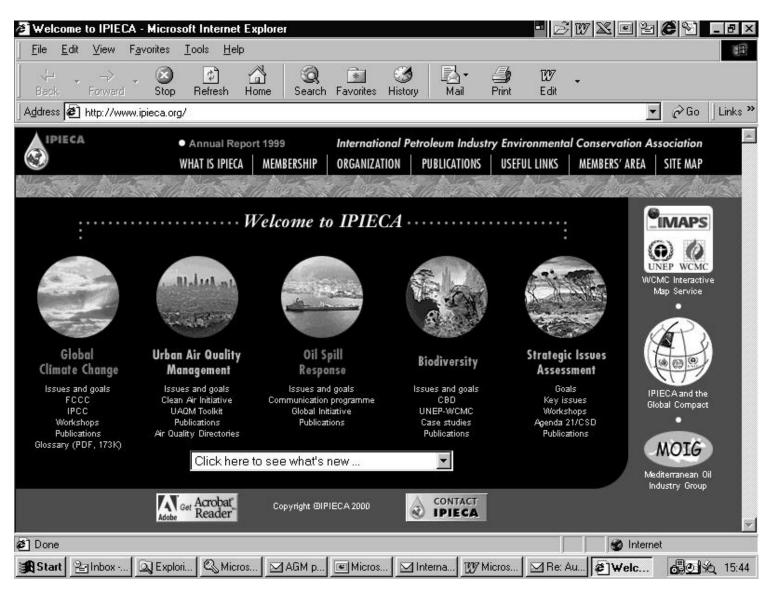
大規模事故 共同作業が必要





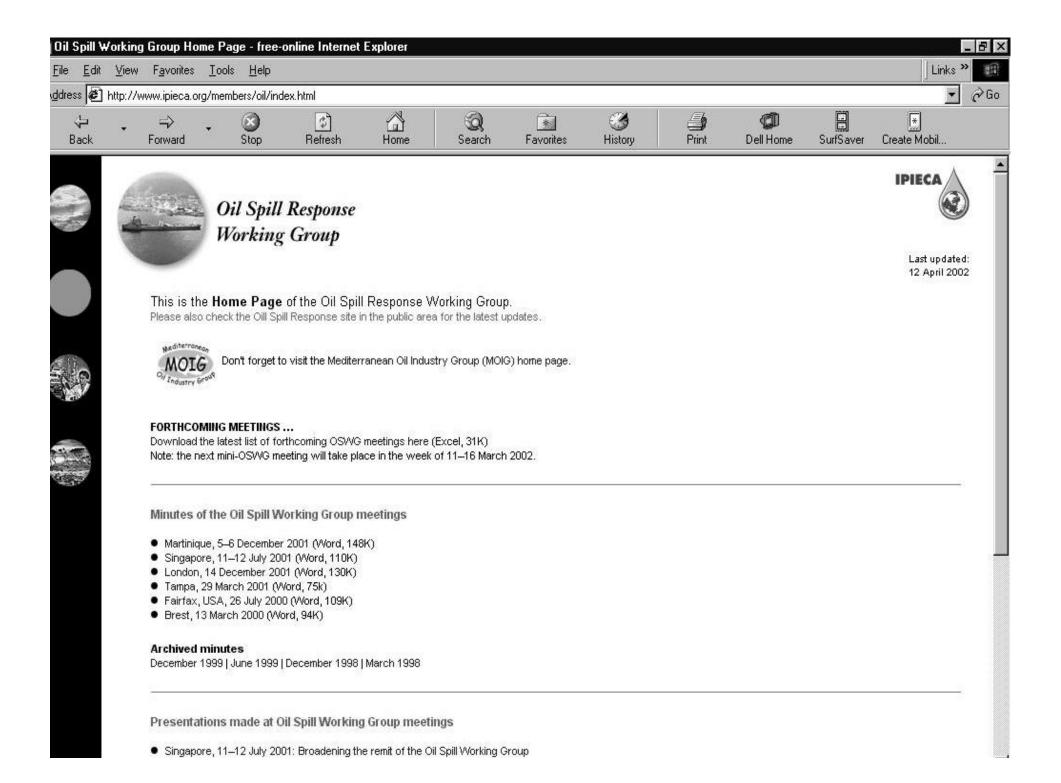
教育と通信連絡

- IPIECA 油濁報告書シリーズ及び一部 IMO、ITOPFとの共同制作
- ビデオ "Working Together"の製作
- 会議への参加及び資金拠出
- メンバーへの説明資料
- ニューズレター
- ウエブサイト www.ipieca.org



IPIECA

http://www.ipieca.org





OSWGの今後の任務

- 大規模事故への対応の状況から見て教育の継続が必要
 - − 段階的な油濁対応資源は、必ずしも使用されず、若しくは出動要請が遅れている
 - 多くの国がまだ条約を批准していない
 - OPRC 条約は批准されているが、それは多くの国で単なる紙切れである
 - 油流出で総合環境影響評価NEBAは対応や影響の極小化のためには使われていない
 - 事故教育の前に、一層の科学的教育が必要である
 - 行政府は、討論から行動に進む必要がある